

CONTENTS

- 新図書館長就任のご挨拶 ————— P 1
- 連載「図書館と私」 ————— P 2
- おすすめDVD紹介 ————— P 3
- 図書館長退任のご挨拶 ————— P 4
- 図書館のちからプロジェクト
(新入生歓迎イベント) ————— P 5
- 新図書委員／退職職員・新職員のご挨拶
寄贈図書の報告 ————— P 6



新図書館長就任のご挨拶

生物・医学領域 教授 野村 憲一

4月より図書館長に任命されました野村憲一でございます。歴代の図書館長の努力を引き継ぎ、さらに本学図書館を充実させていきたいと考えております。

さて、みなさん、図書館の歴史に興味がありますか？ いつごろから、図書館はできたのでしょうか？ 長い人類の歴史の中で、最初の図書館とされているのはアッシリア王アッシュルバニパルが建てたとされる宮廷図書館です。なんと紀元前7世紀。古いです。ここに所蔵されていた、楔形文字の粘土板は、アッシリア朝が滅亡した時に地下に埋もれてしまいます。そのまま、長い年月が流れ、これらの粘土板の存在は忘れ去られてしまいました。

1872年になって、ジョージ・スミスという人物が、大英博物館でアッシュルバニパル王宮図書館跡の粘土板文書の断片を整理しているときに、あることに気づきます。楔形文字の知識を持っていた彼の目は、その中のある文章にくぎ付けになります。

方舟が山に漂着した。
私は鳩を放った。
鳩は飛んでいったが、舞い戻ってきた。

みなさん、おわかりですか？ これは、「ノアの方舟」の一部です。この発見を突破口として、スミスは次々に粘土板の内容を解読、世界に向けてその成果を発表し、一大センセーションを巻き起こしたのです。

考えてみれば、これらの粘土板は、所蔵から2700年ほどの時が経って、また、人類に読まれることになったわけです。なんと長い蔵書期間です。図書館自体は潰れてしまいましたが粘土板は後世に残されました。アッシュルバニパル宮廷図書館、万歳です。

図書館の役割というのは、そもそも、いったい何なのでしょう？ 全国的には、最近、カフェを併設したようなオシャレな建物も多くなっているようです。図書館もずいぶん様変わりしたものです。私は、これで良いことだと思っています。なぜなら、そもそも居心地を良くしなければ、入館者は増えません。入館者が増えない以上、図書館の魅力をよりたくさんの人に知ってもらおうということではできません。

しかし、居心地を図書館の最終目標にしてはいけないと私は思うのです。真の図書館の役割とは、時代を超えて、価値のあるものを所蔵することにあります。アッシュルバニパル宮廷図書館はその典型と言えるでしょう。

本学の図書館は、居心地の良さはもちろんのこと、本当に役に立つ、良い本を揃えるように、スタッフ一同、苦心して蔵書を選んでいます。看護だけに限りません。医学、人類学、情報学、社会学、言語学など、本学のスペシャリストたちが厳選した本を所蔵しています。さまざまな良書を用意して、みなさんが読みに来られるのを我々は待っています。

流行に流されず、かといって、古い物だけにこだわるのでもなく、これらからも、良書を厳選した図書館となるよう努力する所存です。どうぞ、暖かくご指導ください。

おすすめ DVD 紹介

本学の視聴覚資料をご紹介します 「ナース – ナイチンゲールが教えてくれたこと –」

地域看護学 助教 野口 裕子

本学には看護学に関連した視聴覚資料があります。そのなかの一つで、是非皆さんにおすすめしたい資料がありましたのでご紹介します。

このDVDは、自身も看護師である監督が、アメリカ全土で活躍する看護師100人以上にインタビューを実施して作成された看護師の目を通して見た看護の仕事をするドキュメンタリーです。

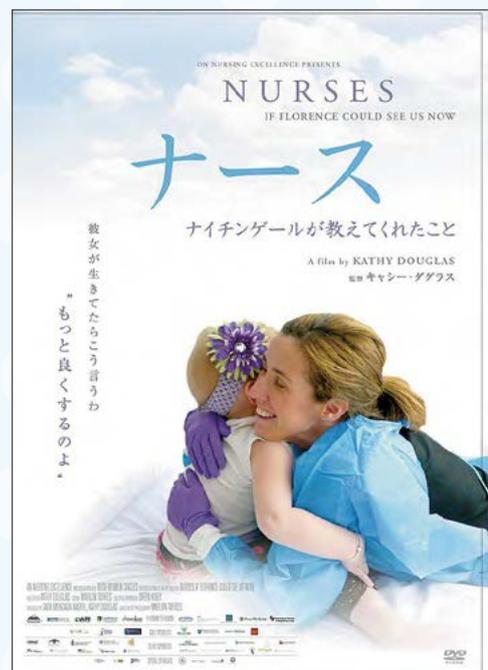
「助けが必要な人々に手を差し伸べること。それは太古の昔より続いています。」というフレーズから始まりナイチンゲールの業績が紹介されます。ナイチンゲールが活躍したころから現代のアメリカにおける小児病棟や、生命の誕生の場、集中治療室の場で活躍している看護師から発せられる言葉のひとつひとつに、力強いパワーを感じます。

様々な場面で活躍する看護師が紹介されています。私が一番印象に残ったのはナバホ族を訪ねる保健師です。ナバホ族はアメリカ南西部に先住するインディアン部族です。片道2時間かけて舗装されていない道をすすんで、現地の方に健康支援を行います。保健師が大切にしている健康支援を行う上での信条とナバホ族が保健師の健康支援を受けて感じたメッセージも綴られています。

看護は、療養者と看護師との間で行われるので、「ことば」のやりとりから感じ取られることもありますが、実際は「ことば」だけではなくその場における状況も密接に関係してきます。この映像を通してケアを受けた療養者が発した「ことば」と発している「おだやかな表情」や「しぐさ」と、看護師が発する「ことば」だけではなく発している「表情」「しぐさ」から看護師としての誇りや熱意を捉えてみてください。約1時間の視聴になります。私はこ

の1時間の視聴があつという間でした。そして視聴したあとは、私自身も心から熱いものを感じる気持ちになりました。

このDVDは、学生の皆さんは図書館でのみ閲覧可能です。是非図書館に足を運んでいただき、ご視聴頂ければ幸いです。教員の皆様におかれましては講義等にご活用いただければ幸いです。



【書誌情報】

請求記号：N043-D89

配架場所：視聴覚資料コーナー



図書館長退任のご挨拶

生物・医学領域 教授 **境原三津夫**

この3月で図書館長を後任の野村憲一教授に引き継ぐことになりました。1年という短い期間でしたが、図書委員及び図書館職員とともに図書館の運営に努力してまいりました。

新入生に対する図書紹介、学生が書店で選書を行うブック・ハンティング、上越教育大学との蔵書交換展示会、大学祭での図書館収蔵DVDの上映会、図書館 News Letter の発行、教員の「おすすめの一冊」のホームページにおける紹介など、図書委員・図書館職員は活動してまいりました。先生方にも原稿提供という形で協力していただき、図書館の運営は大学全体の活動であることを実感した1年でした。図書館の最大の役目は学生に対する学習支援ですが、もうひとつ、本学の情報を発信するという役目があります。情報発信の充実は、本学が上越地域の看護大から新潟県の看護大として、さらに日本の看護大として認知されるために重要です。この情報発信の中心となっているのが、本学のリポジトリである通称「にこナース」です。先生方の学術論文、本学紀要、看護研究交流センター報告書などを「にこナース」を通じて発信しています。「にこナース」の登録件数の増加は、日本の看護大へ歩み始めたことを予感させる現象であり、今後のさらなる充実を期待しています。

心残りがあるとなれば、学生が食堂やホールを学習の場として使用している現状を改善できなかったことです。アクティブ・ラーニングの重要性が増すにつれ、学習の場を図書館に確保し、図書館がもつアーカイブ機能やレファレンス機能を活用しながら学習するラーニング・コモنزの充実が求められています。種々の制約はありますが、本学の看護教育の質を高めるためにも是非実現して欲しいと思っています。大学としても大きな課題ですが、この実現は後任の野村図書館長と図書委員・図書館職員のみなさんに託したいと思います。図書館運営に対する皆様のご協力に感謝し、これからは図書館を大いに利用するという形で図書館を応援していきたいと思っています。

にこナース URL : <https://niconurs.repo.nii.ac.jp>





新入生歓迎イベント

新入生歓迎イベントを行いました

図書委員会

「図書館のちからプロジェクト」は、平成27年度より始動しました。その目的は、1人でも多くの学生が書籍に触れ、対象（患者）理解という側面から、学生が看護職として社会に出るための基礎作りに貢献することです。具体的な活動のひとつとして新入生歓迎イベントがあります。今年度も4月11日（水）に行い、25名の参加がありました。

参加者からの感想として、「図書館を多く利用して本を読みたいと思っていたのとても良かったです。看護師を目指す上で、本や雑誌を読みながら様々なことを考えたいと思いました。紹介していただいた本を全部読んでみたいです。興味をひかれる本ばかりで読むのが楽しみです。」「今後役に立ちそうな本をたくさん紹介してもらえてよかったです。」

「図書館に興味があり、本を沢山借りたいと思っていましたが、何から読めばいいのかわかりませんでした。今回のイベントを通して興味をそえられる本を見つけることができました。本を借りて読むだけでなく雑誌も読めるので図書館を上手に使いおうと思うようになりました。」が寄せられました。

「図書館のちからプロジェクト」は、今年度で3年目に入りました。今回の歓迎イベントにつきましては、旧メンバーのご協力の下、行うことができました。以下のメッセージを頂きましたのでご紹介いたします。



●新入生の皆さん、ようこそ新潟県立看護大学図書館へ！今日は、「図書館のある大学生活」となるよう、5冊の本を紹介しながらお話ししました。まずは、看護の仕事について知ることができる『ライフサポート』『看護の約束』の2冊です。ライフサポートの著者スザンヌ・ゴードン氏は、出産時に24時間励ましてくれた看護師の存在に驚きを感じ、看護という仕事に興味を抱いていきました。そして患者の生命の最前線に立つ看護師の仕事について丁寧に描写し、「看護」と「看護師」を表舞台に導き出しました。看護の約束の著者秋元典子氏も同じく、何が看護であるのかについて、具体的な場面を示しながら丁寧に教えてくれています。看護とは何か、何が看護となるのか、そのことを教えてくれる本たちです。



さて、次は価値観を揺さぶる3冊でした。『National Geographicジェンダー大特集』『「サル化」する人間社会』『13歳、「私」をなくした私』。本は知的好奇心を満たしてくれることはもちろん、沢山のことを感じ、考える機会として、ぜひ、図書館を活用していきましょう。（高塚先生）

●新入生のみなさん、看護学生としての4年間に有意義に過ごすためにも「おすすめの雑誌」を読んでみませんか。『クリニカルスタディ』や『プチナース』は1年生でもわかりやすく、読みやすいです。新たに生まれたギモンやお悩みを解決するお手伝いができると思います。さらに、図書館の1階閲覧コーナーは、ファッション誌や生活情報誌が無料で読めます。友達を待っている時などのちょっとした空き時間には、気軽に図書館で雑誌を試みるのも良いと思います。（石原先生）



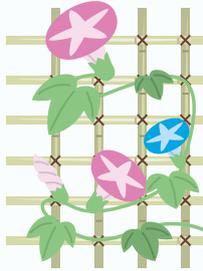
●私は、本学図書館ホームページおすすめの一冊で紹介している『いのち輝くいい話』『気持ちの本』の2冊を紹介しました。

「図書館のちからプロジェクト」は、今年度も1人でも多くの学生が書籍に触れ、対象（患者）理解という側面から、学生が看護職として社会に出るための基礎作りに貢献することができるよう微力ではありますが活動を続けてまいります。（野口先生）



当日紹介された資料

人事往来



新任図書委員ご挨拶

精神看護学 講師 後田 穰

私もお笑い芸人のピース又吉さんが芥川賞を受賞されたのをきっかけに読書量が増えて来ました。今回、図書委員になり更に増やしたいと思います。読書の楽しさを皆さんに提供したり共有したり出来ることを楽しみにしております。

母性看護学・助産学 助教 天谷まり子

4月より新しく図書委員になりました。
これから、学生さんや教職員みな様のニーズをキャッチし、図書館の運営に反映できたらと思っています。
委員の一員として、図書館の発展に貢献できるよう頑張ります。
よろしく願いいたします。

退職図書館職員

川上 朝子

5年間お世話になりました。
学生の頑張る姿に勇気づけられました。
看護大の更なる発展をお祈りしています。

北島 哲

今後も新潟県立看護大学が医療や看護の分野へ優秀な人材を輩出し続けることと、博士課程設立に向けた図書館のさらなる充実を期待しています。

新図書館職員

池田 一利

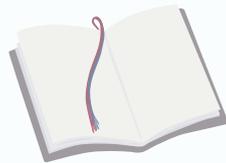
始めまして、4月から図書館開館事務嘱託員となりました池田と申します。
図書の仕事は初めてですので、ご迷惑をかけると思いますが、皆さまの期待の応えられるよう一生懸命頑張りますのでよろしくお願い致します。

田村美和子

4月より図書館でお世話になっております。
一日でも早く仕事に慣れ、皆さんのお役に立てればと思っています。
毎日、笑顔で精一杯、頑張ります。
どうぞよろしくお願い致します。

寄贈図書

平成29年1月～3月



下記の著書をご寄贈いただきました。(受入日順)

敬称略

No.	寄贈者名	書名	出版年月	請求記号
1	瓜崎 貴雄	自殺未遂患者に対する看護師の態度とその変容 救命救急センターの看護師を対象とした質的・量的研究	2017	N954-U86
2	中村 義実	デニス英語の魅力 血の通った英語を読み解く	2015	837.5-N37
3	渡辺 克義	はじめての英語落語	2011	779.1-Ka88
4	吉本 尚	チャレンジ！多職種連携 在宅・地域版 在宅・地域ケアにおける『多職種連携力』を持つ中核的専門人材育成プログラム開発事業 平成26年度	2015	369.16-Y91